

壬生町健康寿命延伸事業に関する事業計画

「壬生町健康寿命延伸事業に関する合意書」第2条に基づき、次のとおり、壬生町と獨協医科大学（以下「大学」という。）が連携・協力して実施する取組等の事業計画を定める。

第1 壬生町の現状と課題

壬生町は女性の健康寿命が栃木県全体より1歳以上短く、平均寿命は男女とも全国より短くなっている。死因別では脳卒中の死亡率（標準化死亡比）が全国に比べて高く、脳卒中の発症が多いことが健康寿命および平均寿命を短くしている要因の一つと考えられる。このことから、脳卒中の発症予防が重要であると言える。また、一般に健康寿命が短いことは、要介護者が多いことに起因するため、要介護状態を惹起する要因を「見える化」（具体的に明らかに）し、重点課題を設定する必要がある。

第2 連携・協力して推進する取組

1. 脳卒中発症低下施策（減塩事業）

(1)食塩摂取に関する地域診断

壬生町が実施する特定健康診査および後期高齢者健康診査の受診者に尿中ナトリウムおよびクレアチンを測定するとともに、食生活に関するアンケート調査を実施する。食習慣と尿検査から推定した食塩摂取量との関連を疫学的に分析し、壬生町の食塩摂取量低下に係る重点事項を「見える化」（具体的に明らかに）する。また、健診結果、要介護認定・給付、医療、死亡等の状況を追跡し、健康寿命との関連を「見える化」（具体的に明らかに）する。

(2)ポピュレーションアプローチによる地域介入

ポスター、チラシ、新聞広告、講習会、標語の募集等のポピュレーションアプローチによる減塩啓発事業を展開する。

(3)モニタリングによる評価

壬生町が実施する特定健康診査および後期高齢者健康診査の受診者に対する尿中ナトリウムおよびクレアチン測定、食生活に関するアンケート調査を継続的に実施し、減塩事業の効果と次の課題を「見える化」（具体的に明らかに）する。

2. 高齢者の介護予防

(1)健診データと介護認定データとのマッチングによる要因分析

特定健康診査および後期高齢者健康診査の健診データを起点とし、住民基本台帳の除票データで転出日や死亡日を、壬生町が保有する医療データ（レセプト）で受療状況を把握しつつ、要介護認定データにより要介護となった日およびその原因を個人ごとに継続的に追跡する。これら壬生町が保有する健診データ、住民基本台帳の除票データ、医療データおよび要介護認

定データのそれぞれに研究用個人 ID を付与し、データのマッチングを行う。健診時の状況と要介護認定との関連を疫学的に分析し、介護予防における重点事項を「見える化」（具体的に明らかに）する。

3. その他両者の協議により定める事業

第3 推進体制の構築

1. 実施責任部署について

本事業計画は、壬生町民生部健康福祉課及び獨協医科大学医学部公衆衛生学講座が主管する。

2. 会議体について

(1) 壬生町健康寿命延伸事業に関する会議等の開催

壬生町と大学は、両者が連携・協力して実施する取組等を効果的に推進するための体制を確立するため、本事業計画の具体的な取組方針や内容について議論等を行う壬生町健康寿命延伸事業に関する会議（以下「会議」という。）を原則として年1回開催する。加えて、個別事業分野ごとに、両者による会議等を随時開催する。

(2) 協議事項

壬生町と大学は、会議において、目標設定、具体的な取組内容、取組実績の評価、改善点の検証等を議論するものとする。

3. 情報の共有化について

壬生町と大学は、両者が連携・協力して実施する取組等を効果的に推進するため、必要な情報を両者間で共有する。

4. 事業の実施・周知広報に係る相互協力について

壬生町と大学は、事業実施にあたって相互に協力するとともに、各々が主催する健康セミナー等の機会を活用し、本事業についての周知広報を積極的に行うものとする。